

1

2

首里城復興基本計画

3

(素案)

4

5

6

7

令和3年2月5日

8

沖縄県

9

1

2

目次

第1章 はじめに	1
1 首里城復興基本計画策定の趣旨	1
2 復興基本計画の期間	1
3 首里城復興が目指す将来像	2
4 復興基本計画の位置づけ	3
5 復興基本計画の構成	4
第2章 基本施策及び施策展開の方向性	5
基本施策1 正殿等の早期復元と復元過程の公開	6
基本施策2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化	10
基本施策3 首里城公園のさらなる魅力の向上	13
基本施策4 文化財等の保全、復元、収集	16
基本施策5 伝統技術の活用と継承	20
基本施策6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進	23
基本施策7 歴史の継承と資産としての活用	28
基本施策8 琉球文化のルネサンス	31
復興基本計画の着実な推進	37

1

第1章 はじめに

2 1 首里城復興基本計画策定の趣旨

3 令和元年（2019年）10月31日未明に発生した火災により、首里城正殿を
4 含む建物8棟の焼損に加え、建物内に展示・保管収蔵されていた多くの美術工
5 芸品等が焼失するなど、甚大な被害を被った。

6 正殿等建物の復旧については、昭和61年（1986年）以降、国営沖縄記念
7 公園首里城地区として城郭内施設の整備を進めてきた国が、一日も早い首里
8 城の復元に向けて、「首里城正殿等の復元に向けた工程表」を令和2年3月
9 27日に関係閣僚会議で決定した。政府が示した工程表には、沖縄県内に蓄
10 積、承継されている伝統技術を活用した沖縄独特の赤瓦の製造・施工、沖縄
11 県や地元関係者の意見も踏まえながら具体的な検討に着手するなどが明記さ
12 れ、国が設置した「首里城復元に向けた技術検討委員会」に土木建築部長他
13 関係部長等が参画し、取り組んでいるところである。

14 一方、沖縄県では、万国津梁（世界の架け橋）として独自の発展を築いてき
15 た琉球の象徴である首里城を強く捉え、その復元はもとより、首里城に象徴さ
16 れる歴史・文化の復興に取り組むとした「首里城復興の基本的な考え方」（以
17 下、「基本的な考え方」という。）を令和元年12月26日に発表した。さらに、基
18 本的な考え方を踏まえた「首里城復興基本方針」（以下、「基本方針」という。）
19 を令和2年（2020年）4月23日に策定した。

20 「首里城復興基本計画」（以下、「復興基本計画」という。）は、基本方針で
21 示した主な施策について、具体的に取り組む際の方向性等を体系的に定め、
22 首里城復興を計画的に推進することを目的としている。

23 また、県民はじめ多くの人びと、企業・団体等及び行政・大学・関係機関等が、
24 復興基本計画を共有することで、20年、50年先などの未来を見据え、連携・協
25 働して、首里城に象徴される沖縄の歴史・文化の価値を確実に次世代へ継承
26 し、それぞれの時代にふさわしい新たな文化創出など沖縄発展の礎として首里
27 城復興に一体的かつ継続的に取り組んでいく。

28 2 復興基本計画の期間

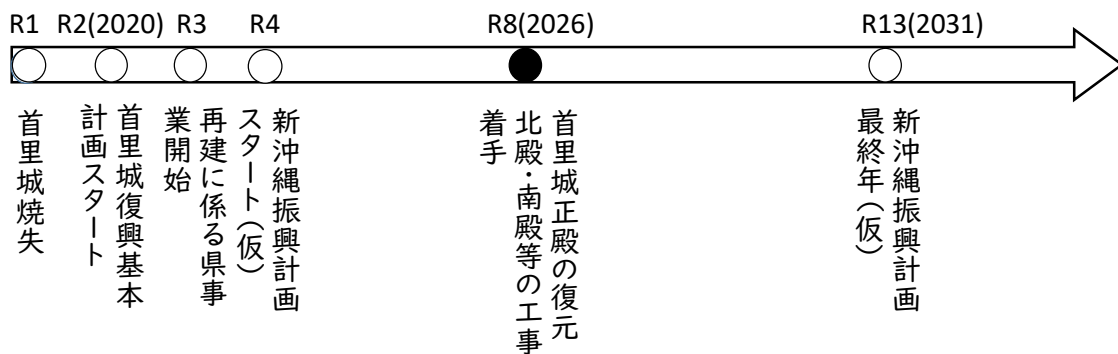
29 本復興基本計画に掲げる各施策は、基本方針を踏まえ取り組むものであり、
30 「首里城跡の適正な保全と価値の周知」、「復元過程の公開による観光資源
31 等としての活用」など、一部については、令和2年度において既に着手してい
32 るところである。

33 このため、本復興基本計画の期間は、令和2年（2020年）度から令和13
34 年（2031年）度までの12年間とする。

35 本復興基本計画は、令和3年（2021年）度末までの2年間を短期、正殿の

1 復元予定である令和8年(2026年)度末までの7年間を中期とする。また、沖
 2 縄21世紀ビジョンの目指す将来像が概ね令和12年(2030年)であることや
 3 「新たな沖縄振興計画」の最終年度見込みが令和13年(2031年)度を踏ま
 4 え、令和13年(2031年)度末までの12年間を長期とする。

5 なお、本復興基本計画に掲げる各施策について、令和3年度末までに完了
 6 するものを短期施策とする。また、短期に着手する施策であっても中期に完了を
 7 見込むものは中期施策、長期に完了を見込むものは長期施策として整理する。
 8 なお、長期を超えて継続が見込まれるものは、長期施策に区分・整理する。



19 首里城復興基本計画の期間
 20 令和2年度から令和13年度末までの12年間とし、
 21 そのうち、令和2年度を始期に、次のとおり整理する。
 22 令和3年度末までに達成する施策は、短期(2年間で達成)
 23 令和8年度末までに達成する施策は、中期(7年間で達成)
 24 令和13年度末までに達成する施策は、長期(12年間で達成)

26 3 首里城復興が目指す将来像

27 首里城復興は、首里城の復旧のみならず、首里城を中心とした歴史・文化の
 28 再評価及びこれを基層とした文化の復興・発展による沖縄振興につなげていく
 29 ことにあり、首里城復興により目指す将来像を次のとおり設定し、各基本施策
 30 を具体化していく。

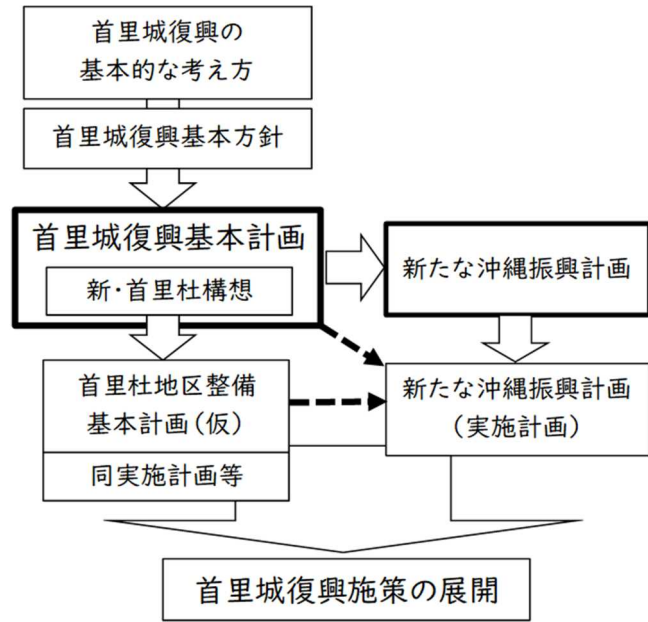
31 首里城を中心とした古より体験・継承している歴史・文化を基層として、
 ふるさとへの誇りや愛着を感じられる社会が形成されるとともに、その時代
 に生きる私たちがそれぞれの挑戦を通して多様で重層的な沖縄振興が果
 たされている。
 そして、これらが積み重なって沖縄の新たな歴史・文化が創造され、これ
 らが基層に加わることで、さらに発展していく社会。

4 復興基本計画の位置づけ

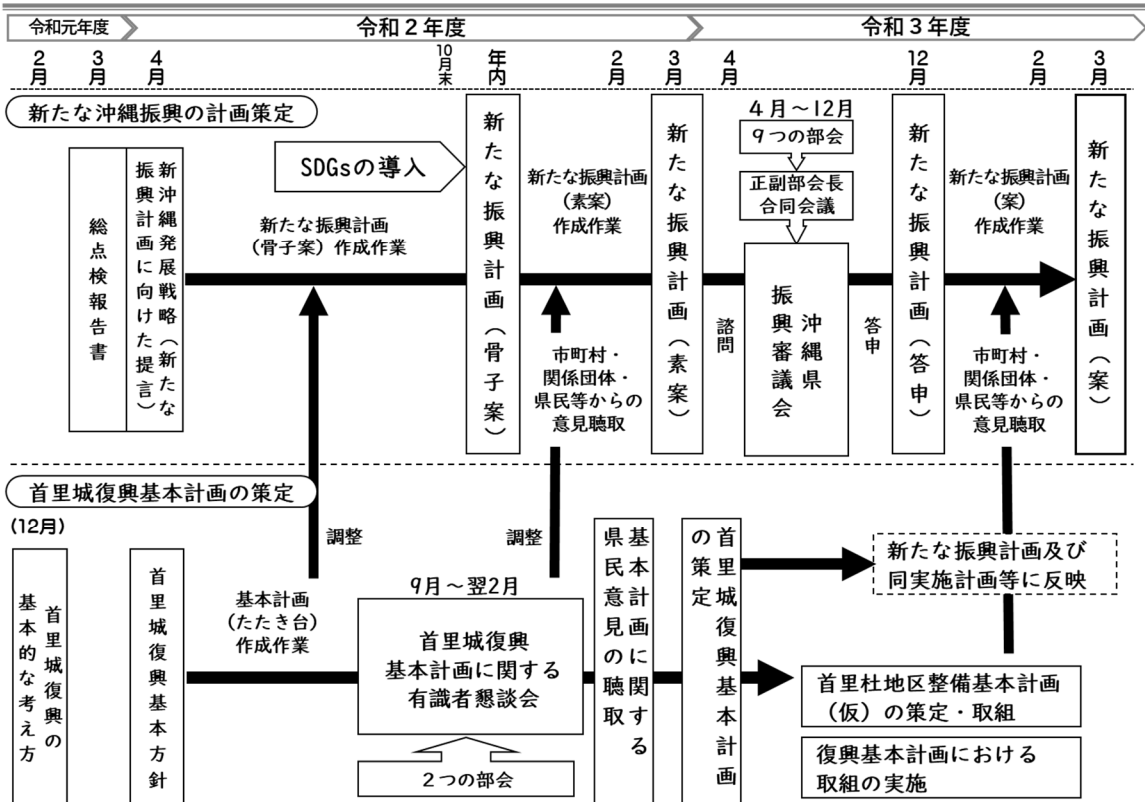
復興基本計画は、沖縄復興特別措置法に基づく沖縄復興計画としての性格を有するとともに、沖縄21世紀ビジョンが示した県民が描く将来像の実現に向け、「基本方向」や「基本施策」等を取りまとめた沖縄21世紀ビジョン基本計画と連動し、具体的に展開されるものである。

一方、沖縄21世紀ビジョン基本計画は、令和3年度末が終期であることから、現在、新たな沖縄復興計画の策定に向け取り組んでいる。

このため、本復興基本計画は、令和4年(2022年)度を始期とする新たな沖縄復興計画の実施計画において、首里城復元はもとより、首里城を中心とした歴史・文化の観点から沖縄復興を目指す施策のマスタープランとなるものである。



首里城復興基本計画及び新たな沖縄復興に向けたスケジュール (予定含む)



5 復興基本計画の構成

【将来像】

首里城を中心とした古より体験・継承している歴史・文化を基層として、ふるさとへの誇りや愛着を感じられる社会が形成されるとともに、その時代に生きる私たちがそれぞれの挑戦を通して多様で重層的な沖縄振興が果たされている。
そして、これらが積み重なって沖縄の新たな歴史・文化が創造され、これらが基層に加わることで、さらに発展していく社会。

【基本施策】	【施策展開の方向性】
1. 正殿等の早期復元と復元過程の公開	(1)伝統技術を活用した施設整備 (2)木材、瓦等の調達に向けた取組 (3)復元過程の公開による観光資源等としての活用
2. 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化	(1)再発防止に向けた防火設備等の強化 (2)安全性の高い施設管理体制の構築
3. 首里城公園のさらなる魅力の向上	(1)国営・県営区域の一体的利用 (2)多様で柔軟な施設の利活用
4. 文化財等の保全、復元、収集	(1)首里城跡の適正な保全と価値の周知 (2)文化財等の復元、修復及び収集
5. 伝統技術の活用と継承	(1)伝統的な建築技術の活用と継承 (2)美術工芸における伝統技術の継承
6. 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進	(1)歴史を体現できる風格ある都市空間の創出 (2)首里城公園及び周辺地域の段階的整備 (3)交通環境の整備
7. 歴史の継承と資産としての活用	(1)多様で魅力ある観光資源の活用 (2)平和を希求する「沖縄のこころ」の発信 (3)次世代を担う子どもたちへの継承
8. 琉球文化のルネサンス	(1)多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識 (2)琉球文化の復興と新たな文化の創出 (3)国内外へ向けた琉球文化の発信 (4)琉球文化を活用した産業振興
復興基本計画の着実な推進	(1)国、那覇市等関係機関との連携 (2)国内外の学術ネットワークとの連携 (3)県民等の継続的な参画による復興

- 1 **第2章 基本施策及び施策展開の方向性**

- 2 **基本施策1 正殿等の早期復元と復元過程の公開**
- 3 **基本施策2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化**
- 4 **基本施策3 首里城公園のさらなる魅力の向上**
- 5 **基本施策4 文化財等の保全、復元、収集**
- 6 **基本施策5 伝統技術の活用と継承**
- 7 **基本施策6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進**
- 8 **基本施策7 歴史の継承と資産としての活用**
- 9 **基本施策8 琉球文化のルネサンス**
- 10 **復興基本計画の着実な推進**

基本施策Ⅰ 正殿等の早期復元と復元過程の公開

基本施策の目的

首里城は、県民等の心の拠り所であるとともに、年間280万人を超える観光客等が訪れる観光拠点でもあることから、国等と連携して伝統技術等を活用した正殿の早期復元とともに、歴史・文化・観光拠点としての復興の取組や、復興への継続的な関心につなげていく。

目指す姿

1. 国が進める首里城正殿等の復元に向けた工程に対応して、県内に蓄積・承継されている技術が活用され、将来の修復に必要な技術者の育成にもつながっている。
2. 木材や赤瓦製作の原材料など、県内資源を活用した首里城復元が取り組まれることで首里城と県民社会の結びつきが強まり、首里城をより身近に感じることに繋がっている。
3. 首里城の復元の段階的公開・関連イベントが実施され、歴史・文化を知る新たな魅力となっており、県民はじめ多くの観光客等が訪れる場になっている。

主な課題

1. 正殿等復元・修復に必要な伝統技術を有する県内若手技術者の育成
2. 今回の復元における県産材の活用に向けた調査及び将来の修復等に備えた植樹、育樹
3. 県内技術者による赤瓦の製作に向けた調査、研究、情報共有等
4. 復元過程の段階的公開に向けた関係機関との戦略的・一体的な取組
5. 新型コロナウイルス感染症対策及びこれを踏まえた積極的な誘客

達成への道筋

1. 国及び首里城復元に関係する技術者・機関等との連携を深め、より充実した体制を整えて復元事業を継続していくことで、伝統技術を有する人材の確保及び育成を図り、長期にわたる首里城復元とその後の修復等を支えていく。
2. 国や関係団体等の協力を得ながら必要とされる県産材の調査・研究を進め、首里城の象徴的な箇所への復元に県産材等の利活用を目指すとともに、将来の修復等に備えて、県営林及び市町村有林等でイヌマキやオキナワウラジロガシ等の植栽及び適正管理に引き続き取り組む。

基本施策Ⅰ 正殿等の早期復元と復元過程の公開

- 1 3. 破損瓦を今回の復元に活用するための研究を進め、復元の歴史の継続性を
2 図る取組を進める。
- 3 4. 一方、国等と連携して城郭内の早期公開及び全体の復元進捗に合わせた、い
4 わゆる「観て学び楽しめる復興」に取り組み、首里城の歴史・文化及び観光拠
5 点としての早期復興、魅力向上及び復興への継続的な関心につなげていく。
- 6 5. 「ウイズコロナ」の観点から、首里城公園内の新型コロナウイルス感染症対策
7 を適確に実施し、県内観光施設の模範となるよう国と連携して取り組む。

8 基本施策の体系

Ⅰ 正殿等の早期復元と復元過程の公開

9	【施策展開】		【施策の方向性】
	(1) 伝統技術を活用した施設整備	中期	①首里城の復元・修復を支える人づくり
	(2) 木材、瓦等の調達に向けた取組	短期	①県産木材の調達
		短期	②首里城赤瓦についての調査研究
		長期	③県民をはじめ国内外から寄せられた思いを形にする取組
	(3) 復元過程の公開による観光資源等としての活用	中期	①正殿の復元過程を観る、学ぶ、楽しむことを実現する取組
		短期	②首里城公園内の新型コロナウイルス感染症対策

10 施策の方向性

- 11 (1) 伝統技術を活用した施設整備
- 12 ① 首里城の復元・修復を支える人づくり
- 13 首里城の復元に携わることで伝統技術のさらなる蓄積や継承の機会を提
14 供し、また、相当の期間にわたって携わり、技能の習熟度を高めることで、活躍
15 の場を広げて将来につなげていくため、国と連携して職人の確保を含めた復
16 元、修復を支える人づくりに取り組む。
- 17 (2) 木材、瓦等の調達に向けた取組
- 18 ① 県産木材の調達
- 19 前回復元においても、正殿の正面にある向拝柱や小屋組など象徴的で重
20 要な箇所には県在来種であるチャーギ(イヌマキ)やオキナワウラジロガシが使
21 用された。今回の復元においても可能な限り県産木材が使用されるよう、森林
22 組合等の協力のもと、国が実施する木材の調査、正殿等の復元に活用できる

1 木材の確保等に連携して取り組む。また、将来の修復等に備えて、市町村等の
2 関係機関とも連携し、県営林及び市町村有林等でイヌマキやオキナワウラジロ
3 ガシ等の植栽及び適正管理に引き続き取り組む。

4 ② 首里城赤瓦についての調査研究

5 首里城復元に用いる赤瓦は正殿だけでも約5.5万枚となっており、原料とな
6 るクチャや赤土は相当量必要であることから、公共事業の建設発生土や適して
7 いると考えられる民有地等について、国と連携して調査・確認を加速していく。

8 また、県工業技術センターにおいて、赤瓦を焼成した際の赤色の色味や適
9 正な吸水率となるような配合や焼成方法の検討、試験体の評価を行い、令和
10 4年度以降の首里城赤瓦の製作及び国が実施する復元工事につなげる。なお、
11 国と連携して、被災した正殿の瓦をシャモット(焼粉)にして、再利用するための
12 研究にも取り組む。

13 ③ 県民をはじめ国内外から寄せられた思いを形にする取組

14 首里城の早期復元に向け、国との連携の下、復元工程に合わせて、首里城
15 正殿の木材や赤瓦の調達、大龍柱等の石彫刻、唐破風妻飾等の木彫刻、龍
16 頭棟飾等の焼物など屋外彫刻の復元、扁額などの室内装飾の復元その他関
17 連事業について、沖縄県首里城復興基金の活用に関する方針に基づき、県民
18 をはじめ県内外の多くの方々から寄せられた寄附金を活用して取り組む。

19 (3) 復元過程の公開による観光資源等としての活用

20 ① 正殿の復元過程を観る、学ぶ、楽しむことを実現する取組

21 火災直後の復旧において、国は県教育庁と連携して、世界遺産として登録さ
22 れている正殿遺構を速やかに保全し、仮設施設の整備による観覧及び大龍柱
23 の補修状況を公開するなど、「今しか見られない姿」が現れている。

24 県においても、国と連携して漆喰シーサーづくりイベント、火災残存物の利用
25 や大画面映像設備等最新デジタル技術を活用した復元に関する展示や説明、
26 プロジェクションマッピング等に取り組む、観光資源としての活用を図る。

27 また、木曳式、正殿建築起工式など、復元の段階における重要行催事の機
28 会を捉え、県民や観光客等が首里城復元過程に参画できる復元・復興関連イ
29 ベントを戦略的・一体的に企画・実施していくため、国、市町村や関係団体等と
30 連携して取り組む。これらの、「今だからこそ」できる体験を通じて、琉球王国時
31 代から今に至るつながりを感じ、新たな未来へ思いを馳せる場になるよう取り
32 組み、歴史・文化及び観光資源としての首里城の魅力を高めていく。

33 ② 首里城公園内の新型コロナウイルス感染症対策

34 「ウイズコロナ」の観点から、新型コロナウイルス感染症対策を適確に講じ、
35 県民をはじめ観光客等を受入れ、県内観光施設の模範となるよう取り組む。
36

Ⅰ 主な関係主体と期待される役割

主な関係主体	期待される役割
<p>県 土木建築部</p> <p>商工労働部</p> <p>農林水産部</p> <p>文化観光スポーツ部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の復元整備に対する連携・協力 ・ 国等と連携した復元過程の公開、復元・復興関連イベントに関する戦略的・一体的な実施 ・ 赤瓦の原材料調査に関する国との連携 ・ 県産木材の調査に関する国との連携 ・ 県民をはじめ国内外から寄せられた思いを形にする取組 ・ 伝統技術の人材育成 ・ 赤瓦の品質に関する調査・研究 ・ 県産木材の収穫に関する調査 ・ 将来の修復等に備えた植栽及び適正管理 ・ 伝統技術の人材育成 ・ 復元・復興関連イベントの観光資源化への連携と情報発信
<p>国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首里城正殿等の復元整備 ・ 県産材や県在来種の調査に関する県との連携 ・ 国営公園の管理と県営公園の管理との連携 ・ 復興過程の公開、地域振興・観光振興及び県等と連携した復元・復興関連イベントに関する戦略的・一体的な実施
<p>那覇市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復元・復興関連イベントへの参画・協力
<p>県民・関係団体及び関係市町村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復元・復興関連イベントへの参画・協力

1 基本施策2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化

2 基本施策の目的

3 首里城正殿等を含む首里城公園内施設について、二度と火災による焼失を生
4 じさせない。

5 目指す姿

6 首里城公園の特性や想定される様々な出火要因等を踏まえ、国及び那覇市消
7 防局等と緊密に連携した首里城公園内における火災の早期発見と迅速な初期
8 消火を可能とする体制・設備が再構築されている。

9 主な課題

- 10 1. 首里城公園の建築物固有の特性、立地と敷地特性等に応じた防火設備・管
11 理体制の再構築
- 12 2. 首里城公園内施設の設置・管理主体及び那覇市消防局等関係者間における
13 連携体制の再構築

14 達成への道筋

- 15 1. 県の「首里城火災に係る再発防止検討委員会」の検討結果を国の「首里城
16 復元に向けた技術検討委員会」に報告する等、国と緊密に連携して首里城公
17 園内の防火設備等の検討・強化に取り組む。
- 18 2. 国営公園区域（首里城城郭内）と県営公園区域を一体と捉え、「首里城火災
19 に係る再発防止策」を策定し、国及び那覇市消防局等と連携して適切な管理
20 体制の構築を図り、安全性の高い施設の管理運営を行う。

21

1 **基本施策の体系**

2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化

	【施策展開】	【施策の方向性】	
2	(1) 再発防止に向けた防火設備等の強化	中期	① 想定される様々な出火要因を踏まえた新たな防火対策等の実施
		長期	② 首里城公園全体の防火対策の強化
2	(2) 安全性の高い施設管理体制の構築	短期	① 首里城火災に係る再発防止策の策定
		中期	② 国等と連携した施設管理体制の構築

3 **施策の方向性**

4 (1) 再発防止に向けた防火設備等の強化

5 ① 想定される様々な出火要因を踏まえた新たな防火対策等の実施
 6 首里城火災について、沖縄県警察及び那覇市消防局は、首里城正殿の損
 7 傷が激しく、いずれも出火原因の特定はできなかったが、県では、首里城公園
 8 で想定される様々な出火要因を踏まえた新たな防火対策等を実施していく。

9 ② 首里城公園全体の防火対策の強化
 10 国が実施する首里城正殿等の防火対策と連携した県営公園区域内での対
 11 策、国営・県営公園区域の防災センター機能の再編等について、国と緊密に
 12 連携して取り組み、首里城公園全体の防火対策の強化に努める。

13 (2) 安全性の高い施設管理体制の構築

14 ① 首里城火災に係る再発防止策の策定
 15 首里城公園の建築物固有の特性、立地と敷地特性等を踏まえ、ハード(建
 16 築物・設備)とソフト(管理・運営)が密に連動した総合的な対策を講じた管理
 17 体制を構築していく。そのため、「首里城火災に係る再発防止検討委員会」の
 18 検討結果を踏まえ、首里城火災に係る再発防止策を策定する。

19 ② 国等と連携した施設管理体制の構築
 20 国等と連携して首里城火災に係る再発防止策を具体化する管理計画等の
 21 検討を進め、首里城公園区域を一体とする管理体制の構築を図っていく。なお、
 22 管理体制の構築にあたっては、管理・運用する人材の確保や教育・訓練など指
 23 定管理者等の役割等も考慮した上で、適切な体制が継続できる仕組みを構
 24 築していく。

25

1 主な関係主体と期待される役割

主な関係主体	期待される役割
県 土木建築部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定される様々な出火要因を踏まえた新たな防火対策等の実施 ・ 首里城火災に係る再発防止策の策定 ・ 県営公園区域内における防火対策の検討・実施 ・ 県管理区域の施設管理体制の構築 ・ 首里城公園全体における防火対策、管理体制構築に関する国等関係機関との緊密な連携
国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国営公園内における防火対策の検討・実施（防災・防火設備の整備等） ・ 首里城公園全体における防火対策、管理体制構築に関する県等関係機関との緊密な連携
指定管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理・運用する人材の確保や教育・訓練
那覇市消防局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首里城公園における防火対策に関する管理者との連携

2

基本施策3 首里城公園のさらなる魅力の向上

2 基本施策の目的

3 新・首里杜構想を踏まえ、国営及び県営首里城公園の文化遺産等を一体的
4 に整備し、展示や案内等の機能強化や、行催事等の幅を広げることで、県民を含
5 む多くの観光客等が歴史や文化を感じ・体感できる場となるよう首里城公園全体
6 の魅力向上を図る。

7 目指す姿

- 8 1. 首里城公園内の歴史的空間の保存、整備とともに、文化財等の展示・収蔵機
9 能、案内や解説、休憩等の利用者の利便性が向上し、歴史や文化を体感でき
10 る場となっている。
- 11 2. 首里城を中心とした歴史・文化の発信や観光の拠点として、鑑賞、体験、交流
12 など多様な行催事が行われ、県民や観光客等にとって首里城や沖縄文化が
13 身近な存在となっている。

14 主な課題

- 15 1. 国営・県営公園の一体的な利用に向けた検討
- 16 2. 県営公園区域内の文化遺産等の計画的整備と活用
- 17 3. 県営公園区域内における美術工芸品等の展示・収蔵施設の整備と活用
- 18 4. 首里城を中心とした歴史・文化の発信や体験、交流の拠点としての機能発揮

19 達成への道筋

- 20 1. 国等と連携し、首里城の魅力を体感できるよう、国営・県営の一体的な利用に
21 に向けた検討を行い、施設整備や利用動線、案内機能の向上、国の首里城復元
22 の施設計画を踏まえた文化財等の展示等に取り組む。
- 23 2. 県営公園区域の中城御殿等、松崎馬場、円覚寺跡や龍潭周辺などを計画的
24 に整備し、歴史的空間を体験できる場を創出する。
- 25 3. さらに、国、那覇市及び関係団体等との連携を充実・強化し、公園内で歴史や
26 文化を体験できる行催事等を推進し、首里城公園の魅力の向上を図る。

27

1 **基本施策の体系**

3 首里城公園のさらなる魅力の向上

2 **【施策展開】** **【施策の方向性】**

(1) 国営・県営区域の一体的利用	中期	①首里城公園全体の魅力向上
	中期	②中城御殿跡の整備と展示・収蔵等機能の拡充
	長期	③県営公園区域内の文化遺産等の整備
(2) 多様で柔軟な施設の利活用	長期	①首里城公園における多様な行催事等の推進

3 **施策の方向性**

4 (1) 国営・県営区域の一体的利用

5 ① 首里城公園全体の魅力向上

6 正殿等の復元整備にあわせて、県、国、指定管理者の連携のもと、首里城公園全体の一体的な利用に向けた検討を行い、施設整備や利用動線、展示や案内機能の向上など首里城の魅力を体感できるように取り組む。

9 ② 中城御殿跡の整備と展示・収蔵等機能の拡充

10 首里城に関連する文化財等を展示・収蔵等する機能も含め、県営公園区域にある中城御殿跡の復元を検討・実施することで、歴史的空間を体験できる場を創出する。

13 ③ 県営公園区域内の文化遺産等の整備

14 松崎馬場、円覚寺跡や龍潭周辺等を計画的に整備し、国営公園と一体となった首里城公園の魅力向上を図り、県民をはじめ観光客等の満足度や回遊性を高め、ひいては周辺地域の周遊につなげていく。

17 (2) 多様で柔軟な施設の利活用

18 ① 首里城公園における多様な行催事等の推進

19 首里城の歴史や神聖な空間に配慮しつつ、首里城が琉球・沖縄文化の発信や交流の拠点となるよう、国、指定管理者や関係団体等と連携して、公園内のエリア別の行催事・機能のあり方について検討するとともに、行催事や体験、教育活動等の計画的実施を推進する。

23

1 主な関係主体と期待される役割

主な関係主体	期待される役割
<p>県 土木建築部</p> <p>教育庁</p> <p>文化観光スポーツ部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国・指定管理者及び関係団体等と連携した首里城公園全体の魅力向上の取組 ・ 中城御殿跡の整備と展示・収蔵等機能の拡充 ・ 県営公園区域内の文化遺産等の計画的な整備 ・ 魅力的で多様な行催事等の推進・促進 ・ 焼失・被災した文化財等の復元及び復元に関する情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> ・ 円覚寺跡の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 琉球・沖縄文化の発信、交流拠点化に向けた国・指定管理者及び関係団体等との連携
<p>国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県等と連携した首里城公園全体の魅力向上の取組 ・ 魅力的で多様な行催事等の計画的実施の促進 ・ 首里城公園における施設整備や利用運営・管理体制等に関する連携
<p>指定管理者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国、県と連携した首里城公園全体の魅力向上の取組 ・ 関係団体等と連携した魅力的で多様な行催事等の計画的実施の推進

2

1 基本施策4 文化財等の保全、復元、収集

2 基本施策の目的

3 周辺文化財を含めた首里城跡の発掘調査等学術的な研究成果等の整理を
4 行い、研究者のみならず一般にも分かりやすく工夫を凝らして公開し、情報発信を
5 することでその歴史的価値を周知する。

6 焼失又は被災した貴重な文化財等の計画的な復元・修復を支援するとともに、
7 国内外に所在する文化財等の調査・収集を行い、次世代へ継承できる環境を整
8 備する。

9 目指す姿

10 1. 首里城跡や首里城周辺の文化財の歴史的価値が評価されるとともに、保全に
11 必要な措置が適切に実施されている。

12 2. 今般の火災で焼失・被災した文化財等美術工芸品の修復及び復元が計画的
13 に取り組まれるとともに、県内を拠点として文化財等の保存・修復が推進され
14 ている。

15 3. 文化財等美術工芸品の研究体制が充実・強化されるとともに、国内外に現存
16 する美術工芸品等の展覧会等が沖縄や各地で活発に実施され、先人の遺し
17 た伝統的な技術又は技法を県内の職人が直接学ぶ機会につなげ、必要な修
18 復等も沖縄で実施されている。さらに、これらの美術工芸品等やそれにかかる
19 情報収集が積極的に取り組みられ、伝統的な技術又は技法が継承されている。

20 主な課題

21 1. 首里城周辺の文化財の情報整理

22 2. 焼失した文化財等の現状把握

23 3. 正殿等の復元に合わせた文化財等の復元、修復

24 4. 文化財等の保存・修復拠点化に向けた環境整備

25 5. 所在する文化財等調査の一元的体制の確立、情報整理、研究及び公開

26 達成への道筋

27 1. 首里城及び周辺の埋蔵文化財に関する調査研究成果を体系的に整理し、一
28 体的に評価するとともに、一般にも分かりやすいよう説明に工夫を凝らし、積極
29 的に周知していくことで、首里城を中心とした歴史・文化等を次世代に継承し
30 ていく環境を整備する。

- 1 2. 焼失・被災した文化財等の現状把握、修復等に関する課題を関係者間で共
- 2 有し、正殿等の復元に向けた工程表を踏まえつつ、文化財等の計画的な修
- 3 復・復元に向けて必要な指導・助言を行うとともに、県内において文化財等の
- 4 保存修復が可能となる環境の整備に取り組む。
- 5 3. 在外沖縄関連文化財等調査成果や引き続き行う所在調査結果を活用し、技
- 6 術の次世代への継承につなげていく。
- 7 4. 県立芸術大学等と連携して取り組むことで、学術的知見の充実及び必要な人
- 8 材の育成等につなげていく。

9 **基本施策の体系**

4 文化財等の保全、復元、収集

10 【施策展開】	【施策の方向性】	
(1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知	短期	① 正殿遺構の適切な保護及び公開
	中期	② 周辺文化財の情報発信
(2) 文化財等の復元、修復及び収集	中期	① 被災した文化財等の修復、復元に対する支援
	長期	② 琉球王国時代の文化財等の調査研究、資料収集

11 **施策の方向性**

- 12 (1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知
- 13 ① 正殿遺構の適切な保護及び公開
- 14 世界遺産である首里城正殿遺構については、国営沖縄記念公園事務所と
- 15 連携して、損傷の状態を的確に把握し、文化庁と連携しながらその保護対策や
- 16 公開についての指導、助言を行う。
- 17 ② 周辺文化財の情報発信
- 18 首里城及び周辺の文化財について、これまでの発掘調査の成果を公開する
- 19 とともに、現地説明会や出土品の企画展示、講演会等を開催する。また、公開
- 20 にあたっては多言語化を含めAR・VR等最新デジタル技術を活用し分かりやす
- 21 さに工夫を凝らすとともに、世界に向けて情報発信等に取り組む。
- 22 (2) 文化財等の復元、修復及び収集
- 23 ① 被災した文化財等の修復、復元に対する支援
- 24 (一財)沖縄美ら島財団が実施する被災した文化財等の計画的な修復等
- 25 向け、文化庁や専門機関との連携のもと助言・協力を行う。また、被災文化財
- 26 等の保存・修復環境確保、所蔵する資料の熟覧など、必要な協力に取り組む。

1 また、国内外に所在する沖縄関連文化財等の修復環境の将来的な整備を
 2 見据えた庁内体制、関係機関及び団体等との協力体制の構築に向けた条件
 3 を整備していく。

4 ② 琉球王国時代の文化財等の調査研究、資料収集

5 国内外に所在する琉球王国時代の文化財等について、これまでの調査結
 6 果に加え、引き続き所在調査を進め、その情報を整理・研究し最新デジタル技
 7 術を活用して広く公開していく。また、これら文化財等の研究報告会、展覧会等
 8 の実施や県内において修復等を行うなど、貴重な文化遺産を守り、次世代に
 9 継承する取り組みを進める。

10 主な関係主体と期待される役割

主な関係主体	期待される役割
県 文化観光スポーツ部 教育庁 商工労働部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財等に関する学術的研究及び必要な人材の育成 ・ 被災文化財の保存・修復環境の確保等の支援 ・ 所蔵する資料の熟覧等の協力 ・ 学芸員による専門的な見地からの助言・協力 ・ 在外沖縄関連文化財等を保管している国内外施設との連携 ・ 在外沖縄関連文化財等の展覧会等の企画 ・ 修復環境の整備に向けた連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正殿遺構公開に向けた保護対策の指導・助言 ・ 首里城周辺文化財の調査、情報発信 ・ 焼失・被災した文化財等の修復・復元に必要な指導助言 ・ 被災した指定文化財の修復支援 ・ 所蔵する資料の熟覧等の協力 ・ 在外沖縄関連文化財等の調査結果の整理・公開及び関係機関との情報共有 ・ 在外沖縄関連文化財等の調査継続におけた関係機関との調整 ・ 在外沖縄関連文化財等を保管している国内外施設との連携 ・ 修復環境の整備に向けた連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 修復環境の整備に向けた連携
国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正殿遺構公開に関する保護対策 ・ 防火設備等設置にあたっての遺構保全への配慮 ・ 焼失・被災した文化財等の修復・復元に向けた指導助言

基本施策4 文化財等の保全、復元、収集

<p>(一財)沖縄美ら島財団</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼失・被災した文化財等の把握、修復等計画の策定、適宜の情報公開 ・ 文化財等の修復に向けた必要な体制の構築と修復の実施等 ・ 首里城で展示する美術工芸品等の収集・復元・保存
<p>那覇市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首里城周辺の埋蔵文化財の調査、情報発信 ・ 所蔵する資料への熟覧等への協力 ・ 学芸員による専門的な見地からの助言・協力

1

1 基本施策5 伝統技術の活用と継承

2 基本施策の目的

3 琉球王国時代から脈々と受け継がれる建築や美術工芸に関する伝統技術を
4 復元のみならず、修復にも活用していくことで、技術の継承及び人材を育成する。

5 目指す姿

- 6 1. 首里城正殿等の華美なたたずまいが悠久に受け継がれるとともに、美術工芸
7 における伝統技術の継承、琉球文化の価値が次世代に伝達されている。
- 8 2. 模造復元製作における技術が蓄積・継承され、県内外にある琉球王国時代の
9 文化財等が適切に保全され、琉球文化の価値が継承されている。

10 主な課題

- 11 1. 模造復元に係る調査研究の継続実施及び復元過程の公開
- 12 2. 保存・修復技術習得に向けた県立芸術大学との連携・協働
- 13 3. 各工芸技術分野における技術者の高齢化への対応及び伝承者養成への環
14 境整備

15 達成への道筋

- 16 1. 首里城正殿等は、その建物自体が巨大な美術工芸品とも言われており、将来
17 にわたる維持管理、修復を実現するため、国の復元工事等と連携して、漆芸や
18 木工等の技術者の継続的な確保、育成を図る。
- 19 2. 美術工芸品の模造復元の機会に若い世代を積極的に取り込むことや、国又は
20 県の無形文化財に指定されている工芸技術を持つ各保存会等の伝承者養成
21 を支援することで、技術の継承や経済的な安定につなげていく。
- 22 3. 県立芸術大学と連携・協働して保存修復技術につながる基礎技能の習得等
23 を支援することで人材の育成・確保を図り、琉球文化の価値を次世代に伝達
24 する基本的条件を整備する。

1 **基本施策の体系**

5 伝統技術の活用と継承

2 【施策展開】	【施策の方向性】	
(1) 伝統的な建築技術の活用と継承	中期	①技術者の育成と活用
(2) 美術工芸における伝統技術の継承	中期	①模造復元を通じたネットワークの構築
	長期	②最新デジタル技術等を活用した技術伝承と文化の継承
	長期	③文化財等保存修復技術の習得に関する体制の整備
	長期	④工芸技術等の伝承者養成に向けた体制の整備

3 **施策の方向性**

4 (1) 伝統的な建築技術の活用と継承

5 ① 技術者の育成と活用

6 今回の首里城復元工事を通して、県内の漆芸や木工等における技術者が
7 活用されるよう国と連携し取り組むとともに、復元後の維持管理・修繕にも活
8 用されるよう技術者の育成、確保に取り組む。

9 (2) 美術工芸における伝統技術の継承

10 ① 模造復元を通じたネットワークの構築

11 専門機関とのネットワークの構築に取り組み、模造復元の取組を継続・計
12 画的に実施することで、技術者の育成及び材料や道具類の確保を促進する。

13 ② 最新デジタル技術等を活用した技術伝承と文化の継承

14 琉球王国時代から相伝する手わざ(絵画、木彫、石彫、染織、漆芸、陶芸、金
15 工、三線等)について、模造復元に係る作業はもとより、調査研究成果のデー
16 タ化を推進し、最新デジタル技術等を活用した情報発信、例えば、模造復元過
17 程の仮想体験ができる仕組み構築に取り組むこと等で、技術者の育成及び手
18 わざへの理解と関心を高めていく。

19 ③ 文化財等保存修復技術の習得に関する体制の整備

20 県立芸術大学において、学部段階から文化財等の保存修復分野の学位取
21 得にも繋がるような授業科目を開設し、大学院の漆芸分野で保存修復技術の
22 演習授業を行うなど、教育内容の段階的な充実を図る。

23 ④ 工芸技術等の伝承者養成に向けた体制の整備

24 国または県の無形文化財に指定されている工芸技術の継承を図るため、各
25 保存会等が実施する伝承者養成事業等を支援すると同時に、保持者の追加

- 1 認定を適宜行い、技術の継承が適正に行われるよう取り組む。また、効果的な
 2 伝承者育成をおこなうため、会をマネジメントする人材の育成等の支援に取り
 3 組む。

4 **主な関係主体と期待される役割**

主な関係主体	期待される役割
県 商工労働部 文化観光スポーツ部 教育庁	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆芸・木工等の技術者育成 ・ 模造復元製作に向けた取組 ・ 保存修復技術の習得に向けた教育内容の段階的な充実への連携 ・ 漆芸や染織等、指定文化財にかかる各種保存会への伝承者養成に向けた支援
国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内に蓄積、継承されている伝統技術の活用、継承の場の提供
各技術者団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各分野における後継者育成
大学等高等教育及び 研究機関等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模造復元品の製作にあたっての連携 ・ 保存修復技術の習得に向けた教育内容の段階的な充実

5

1 基本施策6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

2 基本施策の目的

3 首里城を中心とした首里杜地区において、古都首里のたたずまいを形成し、歴
4 史や琉球文化を体現できる都市空間の創出を図る。

5 目指す姿

6 首里城公園内の歴史・文化資源の整備が進むとともに、周辺地域に点在する
7 文化資源と相まって、歴史を体現できる風格ある都市空間が創出され、住民・来
8 訪者が散策して王朝時代の歴史・文化を体現できる環境が整っている。

9 主な課題

- 10 1. 住民及び団体・企業等の参画を促進する環境の整備
- 11 2. 歴史・文化資源の計画的な保全・整備・活用に向けた連携体制の構築・充実
- 12 3. 公園内回遊及び住民生活と調和のとれた地域周遊への誘導
- 13 4. 住環境への影響を最小限にしつつ地域の活力を増進する観光資源としての
14 利活用
- 15 5. 首里城周辺地域の交通問題の改善

16 達成への道筋

- 17 1. 昭和59(1984)年、沖縄県が「首里城公園基本計画」において首里城を中
18 心とした首里のまちなみ保全を示した「首里杜構想」について、那覇市、住民
19 や有識者等と連携して新たな構想として見直し、整備基本計画を策定する。
- 20 2. 那覇市による歴史まちづくりの推進とあわせ、整備基本計画に基づく県営公園
21 区域内の中城御殿跡や円覚寺跡の復元を進め、公園内における歴史を体現
22 できる都市空間を創出していく。
- 23 3. 那覇市における首里杜地区等の景観まちづくりの取組を支援するとともに、
24 県・市・住民及び団体・企業等の関係者が連携・協力し、交通問題の改善を
25 含めた住環境の向上を図りつつ、首里城周辺を周遊しながら歴史・文化を体
26 現できる環境を整備していく。

27

1 **基本施策の体系**

6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

2	【施策展開】	【施策の方向性】
	(1) 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出	短期 ①「新・首里杜構想」及び「同整備基本計画」の策定
		中期 ②推進体制の構築・充実・強化
		長期 ③歴史や文化を感じる景観まちづくりの推進
	(2) 首里城公園及び周辺地域の段階的整備	長期 ①中城御殿跡や円覚寺等の歴史文化遺産の整備
		長期 ②御茶屋御殿等の地域に点在する文化資源の段階的整備に向けた連携
	(3) 交通環境の整備	短期 ①目標水準の設定
		中期 ②首里城公園の運営による取組
		長期 ③首里城公園周辺での取組
		長期 ④安全で快適な歩行空間の整備

3 **施策の方向性**

4 (1) 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出

5 ① 「新・首里杜構想」及び「同整備基本計画」の策定

6 前回、平成の首里城復元にあたり、首里城を中心とする首里杜地区のまち
7 づくりの基本的な考えを示した首里杜構想について、首里城の復元にとどまら
8 ない今般の首里城復興の理念を踏まえ、まちづくりの新たな理念・方針を示す
9 「新・首里杜構想」を策定する。

10 また、構想に基づき、新・首里杜構想の実現に必要な施策体系を明らかにす
11 る整備基本計画を策定する。整備基本計画は、「歴史的まちづくり(歴史を体
12 現できる風格ある都市空間の創出)」「歴史文化資源の整備(首里城公園及
13 び周辺地域の段階的整備)」、「交通環境の整備」を柱として設定し、那覇市
14 等との役割分担を踏まえ、具体的な事業手法の検討を行う。

15 ② 推進体制の構築・充実・強化

16 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出に向けては、長期かつ多岐にわ
17 たる課題を有することから、県、国、那覇市、有識者、大学等高等教育機関、関

基本施策6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

1 係団体や事業者、住民など多様な主体が必要に応じて参画、協働できる体制
2 を検討・構築、情報を共有することにより課題の解決に継続して取り組むことで、
3 自立的に協働できる地域社会を形成し、計画的な推進につなげていく。

4 ③ 歴史や文化を感じる景観まちづくりの推進

5 歴史・文化、まちなみや人びとの活動（生活風景）の特性・要素及びこれまで
6 での取組を踏まえた風景づくりに係る人材育成や景観アセスメントの実施、赤
7 瓦・石積などの景観素材に関する技術開発、緑化の促進、税制優遇制度の創
8 設等に取り組む、那覇市による景観まちづくりを総合的に支援する。

9 (2) 首里城公園及び周辺地域の段階的整備

10 ① 中城御殿跡や円覚寺等の歴史文化遺産の整備

11 首里城公園において琉球・沖縄の豊かな歴史文化を多面的に伝えるために、
12 県営公園区域にある中城御殿跡、円覚寺跡や松崎馬場等の重要な歴史文化
13 遺産を計画的に整備し、公園内の回遊性を高めることで、国営公園と一体とな
14 った歴史的空間を体験できる場を創出する。

15 ② 御茶屋御殿等の地域に点在する文化資源の段階的整備に向けた連携

16 御茶屋御殿等の段階的な整備については、事業主体や保存に係る調査等
17 の課題解決に向け、那覇市、国と連携して取り組み、実現可能な方策や観光
18 資源等としての利活用の検討を進める。

19 (3) 交通環境の整備

20 ① 目標水準の設定

21 首里地域における通過交通、観光交通、地域住民の交通による局所的に起
22 こる渋滞等について、那覇市、住民、観光・交通事業者等と連携し、交通に関す
23 る定量的なデータの収集・分析、めざすべき交通環境の目標水準を定め、課題
24 解決に向けた対策を検討する。

25 ② 首里城公園の運営による取組

26 首里城公園において、首里杜館駐車場の運用改善や交通事業者との連携
27 により首里城公園への交通観光のピークの分散化を図る。

28 ③ 首里城公園周辺での取組

29 大型観光バス等の駐機場の確保、コミュニティバス等の導入、パークアンド
30 ライドの推進等に取り組む。また、通過交通を抑制するハシゴ道路のネットワー
31 クを形成する幹線道路である那覇インターアクセス道路の早期事業化を図る。

32 ④ 安全で快適な歩行空間の整備

33 首里城に来園する観光客等や地域住民の安全で快適な歩行空間の確保
34 を図るため、無電柱化の推進、龍潭線の整備、歩行者中心の道路空間の創出、
35 スーヅグワの整備、域内公共交通網の充実やICTを活用した情報提供等
36 について、那覇市、住民、交通事業者等との連携体制を構築して取り組む。

37

1 新・首里杜構想

2 <策定の意義>

3 昭和59年(1984年)に策定された首里城公園基本計画において、「首里杜
4 構想」は、弁ヶ嶽御嶽を頂点に、真嘉比川と金城川に囲まれた範囲、及び流域と
5 分水嶺一帯を、古都首里の歴史的発展を特徴づけた風土環境としてとらえ、首里
6 城を中核とする一帯を首里杜地区として、首里のまちづくりに一つの方向性を示
7 すと同時に、首里城公園の位置づけを明らかにし、これに基づき35年以上にわた
8 り取組が実施されてきた。

9 このような中、令和2年10月31日未明に発生した火災により、首里城公園の
10 中核である首里城正殿等が焼失した。県民をはじめ国内外の多くの人々の思い
11 を受け、首里城正殿は令和8年には復元される。しかしながら、首里城復興は、首
12 里城の復元のみならず、首里城を中心として生まれ、それぞれに受け継がれている
13 私たち沖縄の文化の復興・発展が重要である。

14 このため、行政、住民、専門家、企業や国内外の支援者など、多様な関係者が
15 連携し、「首里杜構想」の精神を受け継ぎつつ、新たに50年、100年後に伝承し
16 ていく歴史、文化的な首里杜地区の形成に取り組んでいく。

17 <理念>

18 令和の首里城復元にあたって、首里城正殿をはじめとする首里城公園全体及
19 び城下町として発展した首里杜地区を改めて一体的なものとしてとらえ、歴史、文
20 化的遺産の復元整備とともに歴史的風土環境の保全など、県民が首里杜地区
21 を沖縄の歴史、文化を体現する空間として共有し、これを後世に残していく。

22 <方針>

- 23 1. 中核をなす首里城及び外苑の一群の文化資源を保存・整備するとともに、文
24 化を育む拠点の充実を図る。
- 25 2. 古都首里の歴史的なたたずまいに配慮した景観形成とともに、住みやすく魅力
26 的なまちづくりを進める。
- 27 3. 総合的な交通対策により、暮らしと観光が両立した歩行者中心のまちづくりを
28 進める。
- 29 4. 地形、地質、水系、植生等を基盤に形成された歴史的風土の環境を保全する。
- 30 5. 行政機関及び地域住民、教育機関、関係団体等が連携して取り組みを進めら
31 れる体制を構築する。

32

1 主な関係主体と期待される役割

主な関係主体	期待される役割
県 土木建築部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「新・首里杜構想」及び「同整備基本計画」の策定と推進 ・ 那覇市の景観まちづくりとの連携 ・ 首里城公園国営区域内における計画的な施設整備 ・ 大型バス等の駐機場の整備 ・ 那覇インターアクセス道路、龍潭線等の道路整備 ・ 無電柱化の促進 ・ 那覇市、国等と連携した推進体制の構築
那覇市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「新・首里杜構想」等の策定に関する連携 ・ 「新・首里杜構想」に基づく「歴史まちづくり」の実現へ向けた中心的な取り組みと推進 ・ 都市景観形成地域の拡充等景観まちづくりの推進 ・ 那覇市交通基本計画に示した施策の推進 ・ 県、国等と連携した推進体制の構築
国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首里城公園国営区域内の施設整備 ・ 公園施設利活用における連携 ・ 推進体制への参画・取組への助言、支援
地域住民・地域団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進体制への参画・協働
観光・交通事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進体制への参画・協働

2

1 基本施策7 歴史の継承と資産としての活用

2 基本施策の目的

3 首里城及びその周辺地域を観て学ぶことができる観光資源として活用していく
4 ことで、首里城を中心とした歴史・文化の継承に向けた取組を推進していく。

5 目指す姿

- 6 1. まちなみを含めた首里地域に点在する歴史・文化的遺産、これらを背景とした
7 伝統産業など、地域の潜在的な魅力が資産として認識され、各主体がそれぞ
8 れの強みを生かしつつ相互に連携して歴史・文化を体現できる取組が活発に
9 実施されている。
- 10 2. 首里城周辺に存在する戦争遺跡が適切に保存されるとともに、第32軍司令
11 部壕を活用した平和学習環境等が整備され、悲惨な沖縄戦の実相が正しく
12 後世や世界に伝わり、「沖縄」をより深く知ってもらえている。
- 13 3. 首里城の復興を通して、沖縄の歴史・文化を感じることができる取組が活発に
14 実施され、ふるさとへの誇りや愛着が育まれ、文化の継承につながっている。

15 主な課題

- 16 1. 地域に根ざした伝統産業など、地域の潜在的な魅力の観光資源としての活用
17 2. 首里城公園地下にある第32軍司令部壕を活用した沖縄戦の実相の継承・発
18 信
19 3. 子どもたちが首里城を中心とした歴史・文化に触れる環境づくりの支援

20 達成への道筋

- 21 1. 首里地域に点在する文化財や地域に根ざした伝統産業を含む潜在的な魅力
22 を観光資源化するため、関係機関と連携し周遊ルートの設定・開発を支援する。
- 23 2. 首里城周辺に存在する戦争遺跡の保存に努める。また、第32軍司令部壕の
24 保存・公開の可能性等について、専門家による検討委員会において検討を行
25 い、沖縄戦の実相を正しく後世に継承し、情報発信を行っていくための環境整
26 備に取り組む。
- 27 3. 首里城の復元事業を文化財保護の啓発や歴史・文化の学習等を通じた人間
28 形成の機会として捉え、地域、関係機関と学校教育が連携し、次世代を担う子
29 ども達が、伝統文化及び伝統工芸品に触れることのできる環境整備に取り組
30 むことで、首里城の復興を通じた琉球の歴史、文化を学ぶことのできる機会提

1 供につなげる。

2 **基本施策の体系**

7 歴史の継承と資産としての活用

3

【施策展開】

【施策の方向性】

(1) 多様で魅力ある観光資源の活用	中期	①歴史や伝統産業などの観光資源化
(2) 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信	中期	①歴史的価値を継承するための環境整備
(3) 次世代を担う子どもたちへの継承	中期	①歴史・文化を観て、学ぶことができる環境の整備

4 **施策の方向性**

5 (1) 多様で魅力ある観光資源の活用

6 ① 歴史や伝統産業などの観光資源化

7 首里地域に点在する歴史・文化遺産である石畳道・屋敷石垣、御嶽・井泉
8 や地域に根ざした伝統産業等を活かした観光商品の開発に取り組む民間事
9 業者や観光協会に対し、体験メニューなど観光コンテンツ等の開発を支援する。
10 また、国と連携して首里城公園と一体となった周遊ルートの提案等をしていく。

11 (2) 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信

12 ① 歴史的価値を継承するための環境整備

13 首里城及び首里城周辺等に存在する戦争遺跡について、適切に保存、継
14 承するため文化財指定に向けた取組を進める。首里城公園地下にある第32
15 軍司令部壕については、新たに設置した専門家による委員会において保存・
16 公開の可能性等を検討し、併せて、証言記録、調査資料等の公開・発信や平
17 和学習ツールの開発等にあたり、最新デジタル技術を含めた多様な媒体の活
18 用など、その歴史的価値の継承及び平和発信に取り組む。

19 (3) 次世代を担う子どもたちへの継承

20 ① 歴史・文化を観て、学ぶことができる環境の整備

21 首里城復元の機会を教育資源等として捉え、学校教育の場において、首里
22 城の歴史や復元過程について学習したり、首里城で誕生した組踊の鑑賞、文
23 化財や伝統工芸品に触れるなどの機会の設定を促進することで、次世代を担
24 う子どもたちへ、琉球の歴史・文化を継承する。

25

1 主な関係主体と期待される役割

主な関係主体	期待される役割
<p>県</p> <p>子ども生活福祉部</p> <p>文化観光スポーツ部</p> <p>教育庁</p> <p>商工労働部</p> <p>土木建築部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第32軍司令部壕の歴史的価値の継承及び平和発信 ・ 観光商品の開発や首里城公園と一体となった周遊ルートの開発支援・情報発信 ・ 地域ガイドの育成に対する支援 ・ 組踊等、伝統文化に触れる機会の創出 ・ 地域の文化財保護への支援 ・ 首里城及び首里城周辺に存在する戦跡の文化財指定に向けた取組の推進 ・ 復元の機会を捉えた、歴史・文化を学ぶための環境整備 ・ 組踊等、伝統文化に触れる機会の創出 ・ 伝統工芸品に触れる機会の創出 ・ 首里城公園内における学校教育活動等への協力・支援
<p>那覇市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域、国及び県と連携した周遊ルートの開発 ・ 地域における文化財保護活動への支援 ・ 地域の伝統文化の保存・継承に取り組む団体活動への支援 ・ 子どもたちに向けた地域行事、歴史、文化の継承
<p>国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首里城公園と一体となった魅力的な周遊ルート設定に関する県、那覇市等との連携

2

3

1 基本施策8 琉球文化のルネサンス

2 基本施策の目的

3 首里城の焼失によって改めてその価値が再認識された沖縄独自の文化について、
4 自信と誇りを持ち、その価値を将来に向けて高め、世界に発信していく。

5 目指す姿

- 6 1. 多様性・独自性のある県内各地の地域文化等の価値が再認識されることで
7 普及・啓発され、県民や世界のウチナーンチュが琉球文化を身近に感じ、誇り
8 を持つことで、その継承に向け主体的な活動が行われている。
- 9 2. 首里城及びその周辺が県民等の感動体験の機会を創出する拠点となり、多く
10 の県民等が首里城を身近に感じている。
- 11 3. 沖縄が誇る伝統芸能や伝統工芸等の普遍的価値が再認識されることで、さら
12 なる発展につながっている。
- 13 4. 沖縄の多様な文化が世界へ発信され、認知度が高まっている。
- 14 5. 伝統文化に携わる人々が連携を深め、また異分野の人々との交流を通して新
15 たな文化の創造、伝統技術を活かした商品開発や販路拡大等が行われ、伝
16 統の技が現代のライフスタイルに広く活用されている。

17 主な課題

- 18 1. 価値観の多様化等への対応及び若い世代を中心とした伝統文化に対する関
19 心の喚起
- 20 2. 伝統芸能、伝統工芸に触れる機会の創出
- 21 3. 琉球文化における普遍的価値の再発見及び昇華
- 22 4. 伝統文化に携わる人材間のネットワークの構築及び人づくり
- 23 5. 多様な市場ニーズに対応した伝統工芸品の開発

24 達成への道筋

- 25 1. 関係文化団体等と連携、協力し、歴史、文化を身近に感じ、理解を深め、ふるさ
26 とへの誇りや愛着を高める定期的な行催事の開催等を促進するとともに、琉球
27 文化を見つめ直す日を定める。
- 28 2. 関係文化団体等と連携、協力し、伝統芸能の鑑賞など、琉球文化を体感でき
29 る機会を首里城及びその周辺エリアにおいて創出し、これを契機に国立劇場
30 おきなわの鑑賞機会につなげる仕組みを整備する。

基本施策8 琉球文化のルネサンス

- 1 3. 首里城で演じられる舞台においては、本物志向の衣装、小道具を用いて取り組
2 み、工芸品についても関心が高まる機会を提供することで、伝統文化を体感し、
3 関心を高め誇りを喚起する仕組みを作っていく。
- 4 4. 「琉球料理」及び「泡盛」、「芸能」や「工芸」等多様な琉球文化を総合的に
5 体感できる機会の提供に加え、最新デジタル技術を活用してこれら琉球文化
6 の魅力を発信していく。
- 7 5. 令和3年度末供用開始予定の「おきなわ工芸の杜」等を中心に工芸技術者の
8 育成や原材料確保を図るとともに、消費者の感性に働きかける魅力ある商品
9 開発や、販路開拓等を支援することで、伝統工芸産業の発展を図る。
- 10 6. 異分野との交流を通して新たな文化創出へつながる環境を整備する。

1 基本施策の体系

8 琉球文化のルネサンス

2

【施策展開】		【施策の方向性】
(1) 多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識	短期	①伝統芸能や伝統工芸等に触れる機会の提供
(2) 琉球文化の復興と新たな文化の創出	長期	①琉球文化の普遍的価値の再発見と昇華
	中期	②新たな文化創出機会の提供
(3) 国内外へ向けた琉球文化の発信	短期	①琉球文化を体感する機会の提供
	中期	②最新デジタル技術等による発信
(4) 琉球文化を活用した産業振興	中期	①文化資源を有効活用したビジネスモデルの創出や商品開発
	中期	②工芸産業拠点を活用した伝統工芸の魅力・価値の向上

3

1 施策の方向性

2 (1) 多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識

3 ① 伝統芸能や伝統工芸等に触れる機会の提供

4 首里城及びその周辺エリアにおいて、組踊や県内各地の伝統芸能の鑑賞な
5 ど、琉球文化を体感できる機会の創出に取り組む。

6 また、最新デジタル技術等を活用し分かりやすく工夫を凝らした組踊、首里
7 城復元の際に行われる地域の伝統芸能など地域文化の公演、座談会やワー
8 クショップ等を開催し、伝統芸能の普及・継承に取り組む。

9 「おきなわ工芸の杜」において、各産地と連携した特色ある工芸品に触れる
10 機会を提供するとともに、各地において工芸フェア等のイベントや展示会等の
11 開催にも取り組む。また、最新デジタル技術等を活用して、多様な世代に伝統
12 工芸品の特色や魅力を感じてもらえるよう取り組み、伝統工芸への興味を喚
13 起していく。

14 さらに、先人達が創り上げてきた沖縄の歴史、文化への理解を深め、ふるさ
15 とへの愛着や誇りを感じられる地域社会の形成を目指すため、琉球文化を見
16 つめ直す日を定める。

17 (2) 琉球文化の復興と新たな文化の創出

18 ① 琉球文化の普遍的価値の再発見と昇華

19 首里城で演じられる舞台が、関係団体等と連携し本物志向の衣装、小道具
20 を用いることで、沖縄の伝統文化の粋を集めた質の高い総合芸術となるよう
21 取り組み、継承されている伝統芸能及び伝統工芸に深みを増し、新たな文化
22 が育ち次世代につなげていく。

23 ② 新たな文化創出機会の提供

24 県民の感性豊かな生活文化創造につなげるため、伝統的な技法や素材を
25 活用した、現代の生活様式に対応する工芸品制作に関する応募展の実施や、
26 芸術性やエンターテインメント性の高い新たな琉球芸能の創作機会を創出する
27 など、新たな文化を創出する環境整備に取り組む。

28 また、先人たちが創り上げてきた沖縄の歴史と文化への理解を深めるととも
29 に、新たな歴史と文化を創造する機会を創出する。

30 (3) 国内外へ向けた琉球文化の発信

31 ① 琉球文化を体感する機会の提供

32 国内外へ広く琉球文化を体感できる機会を提供するため、伝統芸能の県外
33 公演・海外公演に対する支援等や琉球の美術工芸品等を保有する国内外の
34 美術館等での公開に取り組む。この取組にあたっては、琉球王国時代から連
35 綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」、「泡盛」、「芸能」や「工芸」等を一体と
36 して捉え、文化をストーリーとして体感できるよう工夫するなど、多様な琉球文
37 化への関心と理解を増進するとともに、沖縄への認知度も高めていくことに努
38 める。

39 ② 最新デジタル技術等による発信

- 1 伝統芸能、伝統工芸等に関するストーリーについて、最新技術を活用したユ
2 ーザー指向の高いデジタルコンテンツを制作し、「Google Arts & Culture」
3 やデジタルミュージアム等により発信するとともに、世界のウチナーンチュネット
4 ワーク等を通して広く世界へ周知していく。
- 5 (4) 琉球文化を活用した産業振興
- 6 ① 文化資源を有効活用したビジネスモデルの創出や商品開発
7 多様性・独自性を持つ本県の文化資源を有効活用し、文化振興と産業振
8 興の両面から相乗効果を生み出すよう、異分野・異業種間の連携を促進する
9 仕組みを構築し、新たなビジネスモデルの創出や新商品開発を推進する。
- 10 ② 工芸産業拠点を活用した伝統工芸の魅力・価値の向上
11 「おきなわ工芸の杜」において、商品開発やマーケティング、ブランド戦略の
12 推進等に取り組み沖縄の伝統工芸の魅力や価値を高める。また、首里城や令
13 和4年度に首里に開設予定の琉球びんがた・那覇伝統織物(首里織)両組合
14 の体験・発信拠点(「古琉球」関連施設)等との連携を図ることで、誘客や販
15 売促進などの相乗効果を目指す。
- 16

1 主な関係主体と期待される役割

主な関係主体	期待される役割
<p>県 文化観光スポーツ部</p> <p>商工労働部</p> <p>教育庁</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域文化の普及・啓発活動への支援 ・ 伝統芸能に触れる機会の提供（県民、観光客等） ・ 「伝統芸能」と「伝統工芸」等の一体的な情報発信 ・ 新たな文化創出機会の提供 ・ 世界のウチナーンチュネットワーク等の活用 ・ 芸能部門と異分野業種との交流促進への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統工芸に触れる機会の提供 ・ 「伝統芸能」と「伝統工芸」等の一体的な情報発信 ・ 新たな文化創出機会の提供 ・ 伝統技術を活かした商品開発や販路拡大への支援 ・ 工芸部門と異分野業種との交流促進への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能に触れる機会の提供（学校現場） ・ ワークショップ等における伝統工芸品（舞台を支える道具や衣装）の紹介
<p>市町村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域文化資源の発掘・活用 ・ 伝統工芸の保全・継承・発展に向けた取組 ・ 地域文化資源を活用した商品・サービス・コンテンツ等の情報発信
<p>高等教育・研究機関等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工芸事業者等との連携による研究開発 ・ 文化資源を活用したイベントへの参画
<p>ボランティア・NPO・地域団体等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化資源を活用したイベントへの参画
<p>関係事業者等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化資源や伝統技術を活用した商品・サービスの開発

1 復興基本計画の着実な推進

2 目的

3 首里城復元を契機とする首里城復興の目的は、首里城を中心とした多様で重
4 層的な沖縄の歴史・文化の再認識を通して、ふるさとへの誇りや愛着を感じるとと
5 もに、文化を基層とした沖縄振興及び文化創造が循環する社会の形成にある。

6 これには、沖縄県だけでなく、国、那覇市を始めとする市町村、企業、大学等高
7 等教育・研究機関、文化団体や県民等が、復興基本計画の方向性を共有し、そ
8 れぞれが自主的に、又は連携して取り組んでいくことで、より高い成果を得ること
9 ができる。

10 このため、復興基本計画及び各基本施策の展開を共有し、それぞれが継続し
11 て首里城復興に参画できる仕組みを基盤として、復興基本計画を着実に推進し
12 ていく。

13 目指す姿

14 1. 国、県等の行政による首里城復興の取組だけでなく、県民、企業、地域団体な
15 ど、様々な主体による自主的な取組とともに、相互に協力・連携した復興の取
16 組が活発化し、着実に復興基本計画の目的達成に向けて進んでいる。

17 2. 首里城復興の取組が、新たな沖縄振興計画に反映され、国と連携して計画的
18 的・具体的な取組が進められている。

19 3. 琉球大学を中心とした国内外の学術ネットワーク及び県立芸術大学による首
20 り城復興に関する研究、議論が活発化するとともに、その成果が地域文化の
21 復興やまちづくり活動等と連携し、具体的な取組につながっている。

22 4. 木曳式等復元の各段階における重要行催事の機会を中心に、多くの人びとが
23 関われる各種イベント等が充実、拡充、継続的に実施され、首里城正殿等建
24 造物の復元はもとより、琉球の歴史・文化等に関する理解・関心が高まってい
25 る。

26 主な課題

27 1. 様々な主体による自主的な取組とともに、相互に協力・連携した復興の取組を
28 支える仕組みづくり

29 2. 琉球大学、県立芸術大学をはじめとする県内外の大学等高等教育・研究機関
30 とのネットワークを活用した首里城を切り口とした研究等ネットワークの構築

31 3. 首里城復興基本計画を着実に推進して行くための財源の確保。

1 **着実な推進に向けた取組の体系**

復興基本計画の着実な推進

2 **【施策展開】** **【施策の方向性】**

(1) 国、那覇市等関係機関との連携等	短期	①役割分担の明確化と連携体制の構築
	中期	②復興財源の確保
(2) 国内外の学術ネットワークとの連携	中期	①琉球大学・県立芸術大学等高等教育・研究機関との連携体制の構築
(3) 県民等の継続的な参画による復興	短期	①県民等の参画機会の確保
	中期	②関係機関等との連携の仕組みづくり

3 **施策の方向性**

4 (1) 国、那覇市等関係機関との連携等

5 ① 役割分担の明確化と連携体制の構築

6 首里城復興基本計画を着実に推進していくため、国、県、那覇市、など関係
7 機関の役割を明確にした上で、各主体が相互に連携・補完しながら効率的・
8 効果的に取組を進めていくための連携体制の構築を図る。

9 ② 復興財源の確保

10 首里城復興基本計画を着実に推進していくため、新たな沖縄振興計画に首
11 里城復興に関する取組を位置づけ、国と連携及び支援を得て取り組む。また、
12 沖縄振興の枠組み以外の各種制度を積極的に活用し、効果的な復興基本計
13 画の推進に努める。

14 (2) 国内外の学術ネットワークとの連携

15 ① 琉球大学・県立芸術大学等高等教育・研究機関との連携体制の構築

16 琉球大学は、首里城火災直後からシンポジウムの開催、首里城関連の情報
17 を発信するためのポータルサイトや、首里城再興に係る研究・教育に資する「首
18 里城再興学術ネットワーク」を立ち上げ、各種取組を進めているところである。

19 そのため、琉球大学をハブとしつつ、県立芸術大学や県内外の大学・研究
20 機関を含めた復興基本計画の推進に係る学際的なネットワーク化のための支
21 援に取り組む。

22

1 (3) 県民等の継続的な参画による復興

2 ① 県民等の参画機会の確保

3 県民、企業、地域・文化団体など、様々な主体が、首里城復興に係るイベント
4 等への参画を確保するとともに、例えば、首里城火災で破損した瓦を利活用し
5 自主的イベントの支援等を通じて、県民のみならず国内外から来訪する方々が
6 首里城復興への思いの共有、文化等への理解向上などを目指し、継続的に参
7 画するための機会の確保に取り組む。

8 ② 関係機関等との連携の仕組みづくり

9 国内外において企業など民間団体による首里城復興に関する取組が積極
10 的に進められており、その活動が連携し合い、継続した取組になっていけるよう
11 県の首里城復興サイトや SNS 等を通じて、情報発信を行うなど相互交流でき
12 る仕組みづくりに取り組む。

13 **主な関係主体と期待される役割**

主な関係主体	期待される役割
県 知事公室 関係各部等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民等による首里城復元・復興に係る主体的取組の情報収集・発信 ・ 県、国等関係行政機関が実施する首里城復元・復興に関する情報の集約・発信 ・ 学際的ネットワーク環境の整備に向けた琉球大学との連携 ・ 復興基本計画の各取組に必要な県民、関係機関・団体等との連携、参画、協働体制の構築 ・ 県民等の参画・協働を前提とした施策の事業化 ・ 琉球の歴史・文化等の調査研究情報ネットワークを活用した各種取組
国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首里城正殿等の早期復元 ・ 沖縄振興計画に基づく各種支援等
那覇市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「新・首里杜構想」によるまちづくりの推進 ・ 小中学校と連携した取組の環境づくり ・ 自治会、NPO 等の市民活動環境の整備
琉球大学・県立芸術大学 等高等教育・研究機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の高等教育機関等との学術ネットワーク環境の整備・連携と学術的取組の推進

14

15